

社会福祉法人大阪府共同募金会ホームページハートフルバナー募金掲載要領

(趣旨)

第1条 この要領は、社会福祉法人大阪府共同募金会(以下、「本会」という。)ホームページに掲載するハートフルバナー募金(以下、「バナー募金」という。)の取扱いについて、「社会福祉法人大阪府共同募金会ホームページハートフルバナー募金要綱(平成19年11月1日施行)」に定めるもののほか、必要な事項について定める。

(バナーの規格、掲載時期等)

第2条 規格、掲載位置及び記載時期等は別途定める。

(バナー募金希望者の募集)

第3条 バナー募金希望者の募集は、本会ホームページ等で行なう。

(規制業種又は事業者)

第4条 次の各号に定める業種又は事業者のバナー募金の掲載については、これを承認しない。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律(昭和23年7月10日法律第122号)で、風俗営業と規定される業種及びそれに類似する業種
- (2) 消費者金融、高利貸しに係るもの
- (3) たばこ
- (4) ギャンブルに係るもの(宝くじに係るものは除く。)
- (5) 法律の定めのない医療類似行為を行なうもの
- (6) 民事再生法又は会社更生法による再生又は更正手続中のもの
- (7) 特定商取引に関する法律(昭和51年法律第57号)に規定する訪問販売、通信販売及び電話勧誘販売に係る取引、連鎖販売取引、業務提供誘引販売取引(ただし、特定商取引に関する法律第30条に規定する「通信販売協会」に加盟しているものを除く。)
- (8) 前各号に掲げるもののほか、本会が適当でないと認めるもの

(掲載基準)

第5条 次の各号に定めるものは、掲載しない。

- (1) 不当な差別等人権侵害又はそのおそれのあるもの
- (2) 他を誹謗、中傷又は排斥するもの又はそのおそれのあるもの
- (3) 法令等で禁止されている商品、無認可商品及び粗悪品等の不適切な商品又はサービスを提供するもの
- (4) 本会事業の円滑な運営に支障をきたすもの又はそのおそれのあるもの
- (5) 公の選挙又は投票の事前運動に該当するもの又はそのおそれのあるもの
- (6) 宗教団体による布教推進を主目的とするもの又はそのおそれのあるもの
- (7) 非科学的又は迷信に類するもので、利用者を惑わせたり、不安を与えるもの又はそのおそれのあるもの
- (8) 次のいずれかに該当するものであって、青少年にとって有害であると認められるもの
 - ア 性的感情を著しく刺激するもの
 - イ 犯罪を著しく誘発するおそれのあるもの
 - ウ 粗暴性、残虐性を著しく助長するおそれのあるもの
- (9) 消費者の利益の確保及び公正な競争の観点から、次の表示(表現)を含むものは掲載しない。

ア 実際よりも、又は競争事業者のものよりも、著しく優良又は有利であると消費者に誤認される表示（不当表示）

（合理的な根拠を示す資料がない場合は不当表示とみなす。）

イ その他、消費者に誤認されるおそれのある表示

ウ 射幸心をあおる表現

（規制業種の企業による規制業種に関するもの以外の内容）

第6条 第4条に定める規制業種に該当する企業による、規制業種に関連するもの以外の内容のものについては、本基準に定められた規制の範囲内でその掲載を認める。

（表示内容に関する個別の基準）

第7条 具体的な表示内容等については、バナー募金申請の受付の都度、別表の各項目について検討し、判断する。その結果、内容の訂正・削除等が必要な場合においては、その旨をバナー募金申請者に依頼することとし、依頼を受けたバナー募金申請者は、正当な理由がある場合以外は訂正・削除に応じなければならない。

（バナー掲載の承認及び決定）

第8条 掲載にあたっては、事前にバナー掲載審査委員会（以下、「審査会」という）の承認を受けるものとする。

2 バナー募金申込書による掲載申込を受けたときは、審査会へ掲載の可否について審査を付託する。

3 前項の規定により審査会が掲載の可否を決定したときは、申込者にバナー掲載可否決定通知書を交付しなければならない。

（承認の取消しなど）

第9条 事務局長は、バナー募金申請者が次の各号の1に該当するときは、掲載の期間中であってもその掲載の承認を取り消すことができる。

（1）本会の名誉又は信用を失墜し、業務を妨害し、もしくは事務を停滞させるような行為があったとき

（2）倒産、破産等により掲載する必要がなくなったとき、又は社会的信用を著しく損なうような不祥事を起こしたとき

（3）その他、事務局長が特に必要と認めるとき

2 掲載の承認を取り消したときは、バナー募金申請者にバナー掲載取消通知書を交付しなければならない。

（バナー募金申請者の責務）

第10条 バナー募金申請者は、掲載内容等に関する一切の責任を負うものとする。

2 バナー募金申請者は、第三者の権利の侵害、財産権の不適正な処理、第三者に不利益を与える行為、その他不正な行為を行ってはならない。

3 バナー募金申請者は、掲載により第三者に損害を与えたときは、バナー募金申請者の責任において解決しなければならない。

附則

この要領は、平成19年11月1日から施行する。

別表 第7条関係

1 語学教室等

安易さや授業料・受講料の安価さを強調する表現は使用しない。

例：一ヶ月で確実にマスターできる 等

2 学習塾・予備校等（専門学校を含む）

合格率など実績を載せる場合は、実績年もあわせて表示する。

3 外国大学の日本校

下記の主旨を明確に表示すること

「この大学は、日本の学校教育法に定める大学ではありません」

4 資格講座

(1) 民間の講習業者が「労務管理士」などの名称で資格講座を設け、それがあたかも国家資格であり各企業は労務管理士を置かなければならないという誤解を招くような表現はしない。下記の主旨を明確に表示すること。

「この資格は国家資格ではありません」

(2) 「行政書士講座」などの講座には、その講座だけで国家資格が取れるというような紛らわしい表現は使用しない。下記の主旨を明確に表示すること。

「資格取得には、別に国家試験を受ける必要があります」

(3) 資格講座の募集に見せかけて、商品及び材料の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。

(4) 受講費用がすべて公的給付でまかなえるかのように誤認される表示はしない。

5 病院、診療所、助産所

(1) 医療法第6条の5又は第6条の7の規定により広告できる事項以外は、一切広告できない。

(2) 掲載する広告の方法及び内容の基準については、医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第1条の9の規定及び厚生労働省「医療若しくは歯科医業または病院若しくは診療所に関して広告し得る事項等及び広告適正化のための指導等に関する指針(医療広告ガイドライン)」に従う。

(3) 広告する治療方法について、疾病等が完全に治癒される旨等その効果を推測的に述べることはできない。

(4) マークを用いることはできるが、そのマークが示す内容を文字等により併せて表記しなければならない。赤十字のマークや名称は自由に用いることができない。

6 施術所（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう・柔道整復）

(1) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律第7条又は柔道整復師法第24条の規定により広告できる事項以外は一切広告できない。

(2) 施術者の技能、施術方法又は経歴に関する事項は広告できない。

(3) 法定の施術所以外の医療類似行為を行なう施設（整体院、カイロプラクティック、エステティック等）の広告は掲載できないため、業務内容の確認は必ず行なう。

7 薬局、薬店、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療用具（健康器具、コンタクトレンズ等）

広告を掲載する事業者が、事業者所在地を所管する地方自治体の薬務担当課で広告内容について了解を得ること。

8 いわゆる健康食品、保健機能食品、特別用途食品

広告を掲載する事業者が、事業所所在地を所管する地方自治体の薬務担当課及び食品担当課並びに公正取引委員会で広告内容について了解を得ること。

9 介護保険法に規定するサービス・その他高齢者福祉サービス等

(1) サービス全般（老人保健施設を除く。）

- ア 介護保険の保険給付対象となるサービスとそれ以外のサービスを明確に区別し、誤解を招く表現を用いないこと。
- イ 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。
- ウ その他、サービスを利用するにあたって、有利であると誤解を招くような表示はできない。
例：大阪市事業受託業者 等

(2) 有料老人ホーム

(1)に規定するもののほか、

- ア 厚生労働省「有料老人ホーム設置運営標準指導指針」に規定する事項を遵守し、別表「有料老人ホームの類型及び表示事項」の各類型の表示事項はすべて表示すること。
- イ 所管都道府県の指導に基づいたものであること。
- ウ 公正取引委員会の「有料老人ホーム等に関する不当な表示（平成16年度公正取引委員会告示第3号）に抵触しないこと。

(3) 有料老人ホーム等の紹介業

- ア 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。
- イ その他利用にあたって有利であると誤解を招くような表示はできない。

10 不動産事業

- (1) 不動産事業者の広告の場合は、名称、所在地、電話番号、認可免許証番号を明記する。
- (2) 不動産売買や賃貸の広告の場合は、取引様態、物件所在地、面積、建築年月日、価格、賃料、取引条件の有効期限を明記する。
- (3) 「不動産の表示に関する公正競争規約」による表示規制に従う。
- (4) 契約を急がせる表示は掲載しない。

例：早い者勝ち、残り戸数あとわずか 等

11 弁護士・税理士・公認会計士等

掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業内容等に限定する。

12 旅行業

- (1) 登録番号、所在地、補償の内容を明記する。
- (2) 不当表示に注意する。

例：白夜でない時期の「白夜旅行」、行程にない場所の写真 等

13 雑誌、週刊誌等

- (1) 適正な品位を保った広告であること
- (2) 見出しや写真の性的表現などは、青少年保護等の点で適正なものであること、及び不快感を与えないものであること
- (3) 性犯罪を誘発・助長するような表現（文書、写真）がないものであること
- (4) 犯罪被害者（特に性犯罪や殺人事件の被害者）の人権・プライバシーを尊重し、節度を持った配慮のある表現であること
- (5) タレントなど有名人の個人行動に関しても、プライバシーを尊重し節度を持った配慮のある表

現であること。

(6) 犯罪事実の報道の見出しについて、残虐な言葉やセンセーショナルな言い回しを避け、不快の念を与えないものであること。

(7) 未成年、心神喪失者などの犯罪に関連した広告では、氏名及び写真は原則として表示しない。

(8) 公の秩序や善良な風俗に反する表現のないものであること。

14 映画・興行等

(1) 暴力、とばく、麻薬及び売春等の行為を容認するような内容のものは掲載しない。

(2) 性に関する表現で、扇情的、露骨及びわいせつなものは掲載しない。

(3) いたずらに好奇心に訴えるものは掲載しない。

(4) 内容を極端にゆがめたり、一部のみを誇張した表現等は使用しない。

(5) ショッキングなデザインは使用しない。

(6) その他青少年に悪影響を与えるおそれのあるものは掲載しない。

(7) 年齢制限等、一部規制を受けるものはその内容を表示する。

15 募金等

(1) 厚生労働大臣又は都道府県知事の許可を受けていること。

(2) 下記の主旨を明確に表示すること。

「 募金は、 知事の許可を受けた募金活動です」

16 質屋・チケット等再販売業

(1) 個々の相場、金額等の表示はしない。

例：「 のバッグ50,000円、航空券 ~ 15,000円」等

(2) 有利さを誤認させるような表示はしない。

17 トランクルーム及び貸し収納業者

(1) 「トランクルーム」は国土交通省の規制に基づく適正業者（マル適マーク付き）であることが必要。

(2) 「貸し収納業者」は会社以外に「トランクルーム」の名称は使用しない。また、下記の主旨を明確に表示すること。

「当社の は、倉庫業法に基づく“トランクルーム”ではありません。」

18 ダイヤルサービス

“ダイヤルQ2”のほか各種のダイヤルサービスは内容を確認のうえ判断する。

19 その他、表示について注意を要すること。

(1) 割引価格の表示

割引価格を表示する場合、対象となる元の価格の根拠を明示すること。

例：「メーカー希望小売価格の30%引き」等

(2) 比較広告（根拠となる資料が必要）

主張する内容が客観的に実証されていること

(3) 無料で参加・体験できるもの

費用がかかる場合があるときには、その旨を明示すること。

例：「昼食代は実費負担」、「入学金は別途かかります」 等

(4) 責任の所在、内容及び目的が不明確な広告

広告主の法人格を明示し、法人名を明記する。また、広告主の所在地、連絡先の両方を明示する。連絡先については固定電話とし、携帯電話、PHSのみは認めない。また、法人格を有しない団体の場合には、責任の所在を明らかにするために、代表者名を明記する。

(5) 肖像権・著作権

無断使用がないか確認をする。

(6) 宝石の販売

虚偽の表現に注意（公正取引委員会に確認の必要あり。）

例：「メーカー希望価格の50%引き」（宝石には通常、メーカー希望価格はない。） 等

(7) 個人輸入代行業者等の個人営業広告

(8) アルコール飲料

未成年者の飲酒禁止の文言を明確に表示すること

例「お酒は20歳を過ぎてから」 等